

# 中学入試の手引き



# なぜ中学入試をするのか？

公立にはない個性的な教育が受けられるから

我が子の学力が伸ばせるような優秀な講師陣がいるから

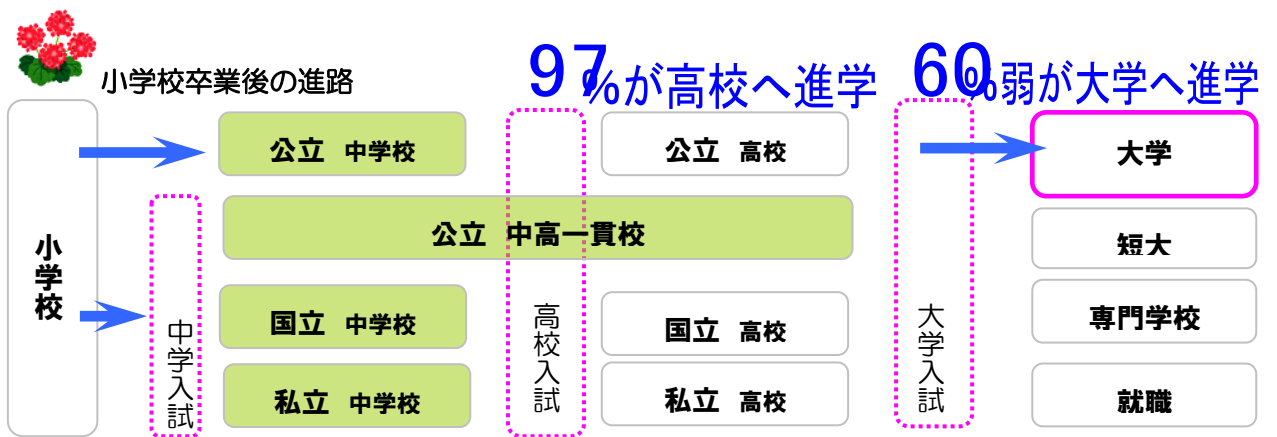
同じレベルのこともが集まり友人関係に安心感があるから

こどもが中学入試を希望したから

校風や教育方針に共感しているから

中学入試は、ご家庭の様々な思いを土台に、お母様やお父様主体でスタートする場合がほとんどですが、友達が受験するから刺激されて受験がしてみたいと思った。など、思わぬ所で、お子様の希望で中学入試を意識することになることもあります。

中学入試は、高校受験や大学受験とは異なり、全国平均で約 10%程です。10 人お友達がいる中で、受験するのは 1 人か 2 人という世界なのです。当然、他の皆が遊んでいる時に受験勉強をすることになります。しかし、中学入試をするということは、お子様のこれからの人生に関して、少し早く考えはじめることができるのではないのでしょうか？



中学入試をするということは、  
行きたい大学により入りやすくする為の  
準備なのね

## 志望校の決め方

国公立大学へ進学のため

付属校へ進学するため

アクセスがよいため



教育理念や学校の方針に共感しているため

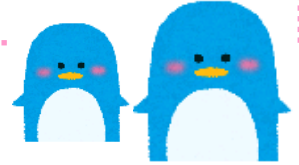
最新の設備や環境の中で勉強できるため

<p>国公立大学へ進学できるような学校</p>	<p>カリキュラムの進度が速い。中3生では公立高校で設定されている高1の学習内容に入り、高2で全ての単元の学習を終えます。高3生では、本格的に受験対策・演習を行います。記述が中心である、国公立の2次試験の対策にマッチしたカリキュラムであることがほとんどです。もちろん、中学入試の時点でも記述を中心に入試問題が難しいことが特徴です。</p>
<p>付属校へ進学できるような学校</p>	<p>付属校へは、ほぼ全員が併設大学へ進学できる学校もあります。このような学校はそのメリットの反面、大学入試で外部へ出ることが難しいとも言えます。後に国公立に行きたいと思った時に、系列大学の推薦枠は辞退したことになることがほとんどです。中には系列校への推薦をキープしたまま、国公立のみ受験ができる学校もありますが、これは非常に稀なケースと言えます。又、国公立大の付属校は多くが研究目的のために設けられているため、大学への推薦枠が少ない等、推薦枠そのものが設定されていない場合がほとんどという点に注意が必要です。一方で、私立大学の付属校は、評定基準やGTECや漢検などの各種資格検定の取得を義務づける学校が多く、入学した後も、一般的な大学入試に向けた学習とは別の勉強が必要になります。</p>
<p>教育理念や学校の方針に共感できるような学校</p>	<p>お子様が6年間通われる学校です。仮に、『部活がたくさんできて、のびのびとした学生生活を送ってほしい』という思いがあったとします。進学校は大学受験に向けて、部活の時間も短く、高1や高2などの早い段階で引退を迎えることがほとんどです。そうすると、志望校に合格したものの、思い描いていたものとは違ってしまった…というミスマッチも起こりますご家庭の思いと学校の教育理念や方針に合わせることは非常に大切です。</p>
<p>最新の設備や環境の中で勉強できる学校</p>	<p>学校によっては、お正月なども自習室を開放している学校もあります。中学生の頃にはあまり関係ないかもしれませんが、高3生になった時には非常にありがたく感じるものです。様々な特色を調べましょう。</p>
<p>アクセスの良い学校</p>	<p>自宅のドアから、学校の校門までの通学時間を考慮しましょう。電車・バス・自転車など様々な天候を考慮して、通学路を具体的にイメージしてみましょう。</p>

国立	公立
京都教育大学附属桃山中学校	京都府立洛北高等学校附属中学校
滋賀大学教育学部附属中学校	京都市立西京高等学校附属中学校
大阪教育大学附属池田中学校	京都府立園部高等学校附属中学校
大阪教育大学附属天王寺中学校	滋賀県立河瀬中学校
大阪教育大学附属平野中学校	滋賀県立守山中学校
	滋賀県立水口東中学校
	大阪市立咲くやこの花中学校

## 国立中学校・公立中高一貫校

私立中学だけでなく、国立中や公立中高一貫校もあります。京都・滋賀・大阪のものを例として挙げましたが、全国にたくさんあります。詳細は文部科学省のHPで確認ができます。



## 学校の特徴を知ろう

ひとつひとつの学校には個性があります。上に書いたように、何に強い学校なのか、特色を調べていくことで、入学後のミスマッチも防ぐことができます。



### 学校を知る機会

#### 《行事》

学校説明会	集団形式でのほか、「個別相談」を行うものも多く、春・秋に多く行われます。推薦等利用する場合は、出願基準を確認できます。
合同説明会 入試相談会	複数の学校が集合して行う説明会のスタイルで、会場は学校毎にブースで仕切られ、「個別相談」が行われます。 春～夏に多く行われます。 (京進でも毎年4/29(祝)に合同説明会を実施しています) 模試の結果や学校内申点が必要な学校は持っていくと担当の先生と少し踏み込んだ詳しいお話ができます。
オープンスクール 体験授業	生徒が学校の様子を体験できるイベント。 夏休みや秋に多く行われます。通学路である駅からのアクセスを確認するのも重要になります。 その学校の雰囲気を感じられる良い機会になるでしょう。
体育祭/文化祭など各種行事	在学生の学校生活の実態を知ることができます。 セキュリティの関係により、参加チケットが必要な学校もあります。学校説明会等で記入するアンケートを元に送付される学校もあれば、HP から参加登録をすることで参加可能とする学校もあります。
プレテスト	中学校が主催する模試で、秋に行われることが多いです。 実際の受験校(教室)を使い本番さながらの雰囲気です。 テストを受けられます。また模試結果による学習アドバイスなども受けることもできます。 大多数は無料ですが、ごく一部有料の学校もあります。

## <<その他情報>>

学校パンフレット 公式HP	学校の全般的な様子を知ることができます。公式HPでは、最新の説明会やイベントなどの最新情報が掲載されています。志望校のHPはこまめにチェックすることをオススメします。デジタルパンフレットを掲載されている学校もあります。
学校紹介誌	特定の地域の中学校の情報をまとめた冊子。
募集要項	秋以降に学校が発表します。 その年度の入試詳細が掲載されます。 公式HPにデータで掲載されている学校もあり、 直接学校にメールや資料取り寄せフォームなどから請求できます。

## 選抜方法

選抜方法は出題内容によって大きく、私国立中型と公立中高一貫校型に分かれます。



**専願と併願** : 専願は合格したら必ずその学校に入学するという入試区分。  
併願は受験日（受験時間）が異なるふたつ以上の入試に出願するときの入試区分。第一志望を専願とし、第二志望以降を併願で出願することが多い。



**推薦と一般** : 推薦入試は基本的に専願である。学校毎に推薦の出願基準が設けられており、その基準をクリアできなければ受験することができない。  
出願書類の1つとして模試の結果の偏差値も重要となる。  
英検などの資格やコンクール入賞などの活動歴や特技も評価対象となる。  
一般入試は誰でも受験することができる。こちらは、当日のテストの結果で合否の判定がされる。



**帰国** : 海外帰国子女を対象とした入試。学校毎に出願基準が設けられており、現地での滞在期間や、帰国後何年以内など細かい基準がある。  
出願書類の1つとして模試の結果の偏差値も重要となる。

## <<一般入試>>

### 公立中高一貫校

### 国立中学校

### 私立中学校

入試時期	1月上旬～2月中旬ごろまでに実施。都道府県ごとに解禁日が決まっています。		
選抜方法	調査書＋適性検査＋作文＋面接などによる総合判断。 抽選により入学許可者の調整を行うことがある。	学力検査 実技検査 面接が中心 抽選は減少	学力検査中心。 科目数など学校によりさまざま。
出題内容	学力検査は実施しない。 <b>科目横断的な適性検査と作文を中心に</b> 選抜することが多い。一定の状況を設定し、情報を読み解く力、問題を解決する力、自分の考えを論理的に表現する力などが問われる。	基本的に小学校の学習指導要領内からの出題だが、 <b>小学校の学習だけでは対応できないものが多い</b> といわれている。 小学校の知識を超えた出題がない代わりに、知識や技術の運用力が求められる問題が多く、事前の訓練が必要とされる。	





## 私立中学試科目

学校によって、1種類の場合と、複数から選択できる場合があります。

算・国の配点が大きくなっているものが多いのも特徴です。

<b>4科目：算・国・理・社</b>	最難関校/難関校が多い。入試の際には4科で受験し、理/社は高得点が取れた方を自動的に選んでくれるというアラカルト方式を採用している学校もある。
<b>3科目：算・国・理/社</b>	難関校が多い。3科目の場合、理科を指定科目としている学校が多い。
<b>3科目：算・国・英</b>	英語教育に力を入れている女子校が取り入れ始めたところ。導入したてということもあり、英語の問題は易しい傾向がある。
<b>2科目：算・国</b>	2日目以降の入試や、中堅以下の学校で主流の科目。

他に、作文や適性検査といった科目を入試科目としている学校もあります。

中学入試において、最大入試科目は4科目となります。しかしながら、難関コースであっても、3科目で、算・国そして理科を指定科目とする学校が多くなりました。

受験において最重要科目は、算数であることには間違いありません。算数で差がつく理由は、

- ・ 1問あたりの配点が大きく、失点の影響が大きいこと
- ・ 誘導形式の問題が多く、前半で間違うと大問まるごと失点するリスクが高いこと
- ・ 4科目の合計点の中で、算数の配点割合が大きい（傾斜配点）学校が多いこと

ということが挙げられます。しかしながら、入試科目はバランス良く学ぶことが大切です。

又、学校により入試の出題傾向は異なりますので、志望校が確定するということは、結果的に受験への近道となります。目標が定まることで、お子様のやる気も高まります。



## 入試日程や午後入試に関して

第一志望前後の入試スケジュールは非常に過密になります。

月	火	水	木	金	土	日
		前受け 滑り止め△中 県外入試				
					解禁 第一志望◎中 A日程	午前 滑り止め▼中
					目	午後 滑り止め★中
	午前 第一志望◎中 B日程					

第一志望の前に練習用の受験として他の地方の県外入試を“前受け”として受験します。学校がある場所では無く、居住地で受験できる機会もたくさんあります。

受験は午後にも実施される様になりました。午後入試が実施されることにより、受験機会が広がりました。1日に2校の入試が入ることもあるため午前仮に失敗しても、午後入試で挽回できます。午後入試は滑り止めで受験する場合も多いため、集計偏差値は高めにてます。同じく、入試日程が複数日程あるうちの、後期日程（B日程）も難易度が上がります。

入試において、第一志望当日に、実力を最大限発揮する必要があります。2～3年かけて、その1日のために受験勉強をするのです。どんなに日々がんばっても、合格最低点に達さなければ、不合格となります。入試当日に最大限の実力を出すために、第一志望より前に滑り止めを設定する“前受け”を受験したり、後ろに滑り止めを設定したり、第一志望の後期日程（B日程）を受験したりなどします。

## 最後に

中学受験をすること。小学生が日々コツコツと勉強をするということは初めての経験であり、非常に大変なことです。塾に来ている数時間だけの学習では、合格は勝ち取れません。ご自宅でも、宿題の他に、毎日の漢字練習、計算練習、重要用語の確認テストなど暗記や計算項目にたくさん取り組んでいただきたいです。きっと、楽しいことよりも、辛いと感じることの方が多いと思います。お友達の大多数が受験勉強をする高校入試や大学入試とは異なり、中学入試をするということは、そのような覚悟が必要となります。目標に向かって努力する。そして、知識を深める。しかし、結果が思うように出ずに、悔しくて涙することもあるかと思いますが。それでも逃げ出さずに、くじけずにごがんばり続ける。そのようにしてお子様を迎える、入試当日の気持ちをどうぞ大切にしてください。どうかこれまでの努力が報われますように。持てる全ての力が発揮できますように。と生徒様を送り出していただければ幸いです。